

奈良国立文化財研究所要項

I 事業概要

館野 和己

1 研究普及事業

公開講演会

- (1) 1985年5月18日 第57回公開講演会
「象嵌遺物の保存科学的研究」 秋山 隆保
「縄文文化の起源」 土肥 孝
- (2) 1985年11月9日 第58回公開講演会
「番付墨書からみた室町・桃山建築」 清水 真一
「古代の武具—飛鳥寺塔心礎の挂甲」 小林 謙一

- (5) 1985年10月19日 藤原宮第46次発掘調査
(新庁舎予定地) 大脇 潔
- (6) 1985年11月2日 石神遺跡第5次発掘調査 立木 修
- (7) 1985年11月23日 平城宮跡第169次発掘調査
(第二次朝堂院朝庭域) 本中 真
- (8) 1985年12月14日 平城京右京八条一坊十四坪
発掘調査 杉山 洋
- (9) 1986年3月15日 平城宮跡第171次発掘調査
(第一次朝堂院東南部) 花谷 浩

平城宮跡資料館・覆屋公開

- (1) 春季特別公開 1985年4月27日～5月6日
見学者 9,149名
- 秋季特別公開 1985年10月26日～11月10日
見学者 17,467名
- (2) 見学者数

区分	資料館	履屋	計
1985年	73,024	53,320	126,344
累計	720,560	1,025,626	1,746,185

資料館は1970年度、履屋は1963年度以降の累計

現地説明会

- (1) 1985年6月29日 平城京左京九条三坊十坪発掘調査 田辺 征夫
- (2) 1985年7月6日 平城宮跡第165次発掘調査
(南面大垣一壬生門東一) 橋本 義則
- (3) 1985年9月14日 平城京右京八条一坊十三坪発掘調査 千田 剛道
- (4) 1985年9月26日・27日 平城宮跡第167次発掘調査<見学会>(南面大垣一壬生門西一)

2 1985年文部省科学研究費補助金による研究

種別	研究課題	研究代表者	交付額
特別推進研究(2)	古年輪変動データの分析による考古歴史研究方法の確立	田中 琢	64,000千円
一般研究 A	大和における古代豪族の支配の領域についての復原的研究	鬼頭 清明	500
一般研究 B	日本出土青銅器の材質分析による編年研究	町田 章	18,000
一般研究 C	古代武器の研究	猪熊 兼勝	300
一般研究 D	古代水時計発達史の研究	木下 正史	500
一般研究 E	考古学史の基礎的資料収集並びに研究	佐原 真	3,100
一般研究 F	わが国古代における轆轤構造の復原的研究	工 楽 善通	1,500
奨励研究 A	駅家の考古学的研究	山中 敏史	1,900
奨励研究 B	西宮記諸写本の校合を通してみた平安時代儀式の研究	橋本 義則	700
奨励研究 C	西日本における弥生時代後期土器の編年の研究	岩永 省三	500
奨励研究 D	「ヘラ記号」をもつ土器に関する研究—その分布と地域性—	西口 寿生	700
奨励研究 E	考古学における動物遺存体の基礎的研究—現生標本の作成を中心として—	松 井 章	900
奨励研究 F	環状鏡板轡に関する基礎的研究	花谷 浩	600
奨励研究 G	石造文化財における経年変化の定量的解析に関する研究	内田 昭人	900
奨励研究 H	建築墨書にみる室町建築界の地域性に関する研究	清水 真一	900
奨励研究 I	日本庭園における景観構成に関する研究	本中 真	900
試験研究 (1)	発掘遺構を対象とする簡易写真測量法の開発研究	伊東 太作	5,050
特定研究 (1)	山田寺を中心とする出土木材の保存法の改良と考古学的建築史学的研究	坪井 清足	3,200
研究成果刊行費 (データベース)	航空写真情報	〃	6,870
海外学術調査	日本と中国における都市の比較的研究 (予備調査)	〃	5,100
計	20件		116,120

3 飛鳥資料館の運営

展 示

第一展示室 常設展示

第二展示室 特別展示「大官大寺」

(1985. 4. 23~1985. 5. 26)

特別展示「日本と韓国の塑像」

(1985. 10. 3~1985. 11. 24)

普 及

前年同様インフォメーションルームで観覧者の質問に応じている。また、特別展示の図録として「大官大寺」及び「日本と韓国の塑像」を刊行した。

入館者数 (1985. 4. 1~1986. 3. 31 開館日数 315日)

	普通観覧	団体観覧	有 料	無 料	合 計
一 般	51,818	27,722	227,056	11,009	238,065
高・大生	15,050	36,962			
小・中生	17,422	78,070			
計	84,296	142,760			

陳列品購入

栗原寺軒丸瓦 岡酒船石(模)

4 埋蔵文化財センターの研修・指導

研 修 埋蔵文化財の保護に資することを目的として主に地方公共団体の埋蔵文化財保護行政担当者を対象に次の研修を実施した。

(1) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(写真測量課程)

1985年4月18日~4月27日(参加者13名)

(2) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修

(縄文時代遺跡調査課程)

1985年5月10日~5月21日(参加者26名)

(3) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(石造物調査課程)

1985年6月4日~6月6日(参加者30名)

(4) 昭和60年度埋蔵文化財担当事務職員特別研修
(埋蔵文化財基礎課程)

1985年6月14日~6月20日(参加者33名)

(5) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者一般研修
(一般課程)

1985年7月2日~8月9日(参加者24名)

(6) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(鉄器保存課程)

1985年9月3日~9月20日(参加者16名)

(7) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(埋蔵文化財情報課程)

1985年10月1日~10月11日(参加者30名)

(8) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者特別研修
(土層転写課程)

1985年10月22日~10月24日(参加者22名)

(9) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(予備調査課程)

1985年11月1日~11月19日(参加者20名)

(10) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(遺跡保存整備課程)

1985年12月3日~12月9日(参加者27名)

(11) 昭和60年度埋蔵文化財発掘技術者専門研修
(環境考古課程)

1986年3月7日~3月26日(参加者23名)

研 修 員 一 覧 表

氏 名	所 属	受 入 れ 期 間	受 入 れ 室	研 修 指 導 内 容
服 部 哲 則	(財)千葉県文化財センター調査 研究員	1985. 5. 7~ 1985. 5. 27	遺物処理研究室	出土遺物の保存処理につ いて
加 古 千 恵 子	兵庫県教委技術職員	1985. 5. 8~ 1986. 3. 27	同 上	埋蔵文化財の保存処理
Kim, Hong-Ju	慶州国立博物館学芸士	1985. 7. 8~ 1985. 9. 20	同 上	金属保存処理
小 林 直 人	三重県教委県外研修生 (鈴鹿市立稲生小学校教諭)	1985. 9. 1~ 1985. 11. 30	飛鳥藤原宮跡発掘調 査部	埋蔵文化財の発掘調査お よび保存について
高 森 英 純	同 上 (嬉野町立豊田小学校教諭)	1985. 10. 1~ 1985. 12. 28	平城宮跡発掘調査部	同 上
前 川 依 久 雄	同 上 (上野市立丸山中学校教諭)		同 上	同 上
文 永 彬	韓国文化財管理局専門委員	1985. 12. 15~ 1986. 4. 14	建造物研究室	建造物修理と発掘調査に ついて
蘇 哲	北京大学研究生	1986. 2. 3~ 1986. 2. 28	埋蔵文化財センター 研究指導部	発掘調査の方法と測量法 等
范 培 松	陝西省文物管理委員会	1986. 2. 10~ 1986. 2. 21	同 上	測量および発掘調査等
岡 山 真 知 子	徳島県博物館学芸員	1986. 2. 14~ 1986. 2. 21	遺物処理研究室	保存科学研修

発掘調査・整備・探査指導

(北海道) 開陽丸遺跡, 上之園勝山館跡, 美利河遺跡, (岩手県) 毛越寺庭園, 盛岡城跡, 九戸城跡, 胆沢城跡, (宮城県) 多賀城跡, 郡山遺跡, (山形県) 押出遺跡, 沼田13遺跡, (福島県) 薬師堂石仏, 慧日寺跡, 関和久上町遺跡, (茨城県) 神野向遺跡, (栃木県) 足利学校跡, 下野国庁跡, 下野薬師寺跡, (群馬県) 上野国分寺跡, 宇通遺跡, (神奈川県) 瑞泉寺庭園, 小田原城跡, (富山県) じょうべのま遺跡, 安田城跡, 桜町遺跡, 北代遺跡, (福井県) 吉河遺跡, (長野県) 松本城二の丸御殿跡, 森將軍塚古墳, 妻籠宿本陣跡, 中央道長野線遺跡, 信濃国府遺跡, (岐阜県) 岐阜城跡千畳敷, 高山城跡, 美濃国分寺跡, (静岡県) 勝岡田城跡, 横須賀城跡, 大谷川遺跡, (愛知県) 尾張国府跡, 三河国分寺跡, (三重県) 斎宮跡, 牧瓦窯跡, 夏見庵寺, 近畿自動車道関伊勢線遺跡, 一般国道1号亀山バイパス遺跡, 草山遺跡, (滋賀県) 総持寺庭園・池明氏庭園, 針江川北遺跡, (京都府) 高麗寺跡, 山城国分寺跡, 丹波国分寺跡, 福生塚窯跡, 大覚寺御所跡, 滋賀谷窯跡, (大阪府) 難波宮跡, 四天王寺境内跡, 野中寺, 三ツ塚古墳, 津堂城山古墳, 長原遺跡, 御獅子塚古墳, 風土記の丘地域, 大阪層群地域, (兵庫県) 播磨国分寺跡, 感状山城跡, 辻井遺跡, 新宮・宮内遺跡, 桜ヶ丘銅鐸・銅戈, 七日市遺跡, 伊和中山古墳, 淡路国分寺, 川岸遺跡, 大山荘園, 伊和中山4号墳, (奈良県) 新沢千塚古墳群, 飛鳥水落遺跡, 唐古・鏡遺跡, (和歌山県) 上野廃寺跡, 秋月遺跡, (鳥根県) 荒神谷遺跡, 教吳寺, 出需国山代郷上倉跡, 石見銀山跡, (岡山県) 大廻小廻山城跡, 亀山遺跡, 園井土井遺跡, 美和山古墳群, (広島県) 草戸千軒町遺跡, 大宮遺跡兼代地区, (山口県) 大内氏遺跡, 延行条里遺跡, 土井ヶ浜遺跡, 綾羅木郷遺跡, (徳島県) 若杉山遺跡, 阿波国府跡, (香川県) 讃岐国分寺跡, 石清尾山古墳群, (感媛県) 松山城跡二の丸, 久米高畑遺跡, (高知県) 高知空港拡張地区, (福岡県) 太宰府跡, 王塚古墳, 椎木山遺跡, (佐賀県) 大黒町遺跡, 名護屋城並びに陣跡, 谷口古墳, (長崎県) 出島和蘭商館跡, 伊木力熊野神社遺跡, 伊木力遺跡, (熊本県) 塚原古墳群, 風土記の丘地域, (大分県) 弥勤寺旧境内, 豊後国分寺跡, ガランドヤ古墳, (宮崎県) 蓮ヶ池横穴群, (沖

縄県) 首里城跡, フルスト原遺跡, 今帰仁城跡, 崎枝・赤崎遺跡

埋蔵文化財ニュース刊行

- 第51号 城館址発掘調査・分布調査報告書一覧
第52号 埋蔵文化財関係調査報告書等の刊行数・発掘届等件数の推移
第53号 埋蔵文化財発掘届出件数と発掘調査費用の推移
第54号 地方公共団体埋蔵文化財保護発掘調査機関等の現状

5 その他

委員会等

第12回飛鳥資料館運営協議会

1985年5月15日 於飛鳥資料館

平城・飛鳥藤原宮跡調査整備指導委員会

1985年6月28日・29日 於平城宮跡資料館講堂
保存科学研究集会

1986年3月24日・25日 於平城宮跡資料館講堂

外国出張

坪井清足 考古学に関する学術交流及び調査のため中華人民共和国へ出張

1985年6月3日～同年6月18日

日本と中国における都市の比較史的
研究のため中華人民共和国へ出張

1985年9月1日～同年9月30日

保存に関する研究協議会出席のためイ
タリアへ出張

1985年12月4日～同年12月9日

田中 琢 考古学に関する学術交流及び調査のため中華人民共和国へ出張

1985年6月3日～同年6月18日

町田 章 考古学に関する学術交流及び調査のため中華人民共和国へ出張

1985年6月3日～同年6月18日

宮本長二郎 考古学に関する学術交流及び調査のため中華人民共和国へ出張

1985年6月3日～同年6月18日

東南アジア民家の系統的研究のためイ
ンドネシア, タイへ出張

1985年8月9日～同年9月25日

猪熊兼勝 展覧会のための韓国古代仏教美術の調
査のため大韓民国へ出張

1985年6月23日～同年7月5日

展覧会のための韓国古代仏教美術品の借用のため大韓民国へ出張

1985年9月11日～同年9月20日

展覧会のための韓国古代仏教美術品の返却のため大韓民国へ出張

1985年11月29日～同年12月13日

沢田正昭 考古学に関する学术交流及び調査のため中華人民共和国へ出張

1985年6月3日～同年6月18日

松本修自 ローマ文化財修復国際センターの建造物保存コースに参加及び事前の語学研修のため連合王国、イタリアへ出張

1985年11月23日～1986年6月9日

土肥 孝 内陸アラスカの考古学的研究のためアメリカ合衆国へ出張

1985年7月13日～同年8月31日

小林謙一 展覧会のための韓国古代仏教美術品の調査のため大韓民国へ出張

1985年9月11日～同年9月20日

井上和人 展覧会のための韓国古代仏教美術の調査のため大韓民国へ出張

1985年6月23日～同年7月5日

井上直夫 展覧会のための韓国古代仏教美術の調査に伴う撮影のため大韓民国へ出張

1985年6月23日～同年7月5日

協力事業等

文化庁では1971年度から特別史跡藤原宮跡の国有化を進めており、1972年度から当研究所が文化庁から支出委任を受けて買取事務を担当しているが、1985年度の状況は下記のとおりである。

区 分	面 積	金 額
1985年度	7,894.47m ²	271,932,999円
国有地合計	293,642.71	7,633,162,189

II 図書及び資料

図書 90,092冊 (1986. 3. 30)

区 分	種 別	購 入	寄 贈	計
1985	和 漢 書	1,817	6,739	8,556
	洋 書	145	142	287
累 計	和 漢 書	40,791	43,393	84,184
	洋 書	5,036	872	5,908

写真 317,910点 (1985年度末現在)

III 研究成果刊行物

1 1985年度刊行物

	名	称
学 報	第44冊	平城京左京三条二坊六坪発掘調査報告
史 料	第28冊	平城宮木簡四
	第29冊	興福寺藏典籍文書目録第一巻
図 録	第14冊	日本と韓国の塑像
	第15冊	飛鳥寺
報告書等	昭和60年度平城宮跡発掘調査部発掘調査概報	
		飛鳥・藤原宮発掘調査概報
		平城宮発掘出土木簡概報18
		平城京左京九条三坊十坪発掘調査報告

2 前年度までの刊行物

奈良国立文化財研究所学報

年度	名	称
1954	第1冊	仏師運慶の研究
	第2冊	修学院離宮の復元的研究
1955	第3冊	文化史論叢
1956	第4冊	奈良時代館房の研究
1957	第5冊	飛鳥寺発掘調査報告
1958	第6冊	中世庭園文化史
	第7冊	興福寺食堂発掘調査報告
1959	第8冊	文化史論叢Ⅱ
	第9冊	川原寺発掘調査報告
1960	第10冊	平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告
	第11冊	院家建築の研究
1962	第12冊	巧匠安阿弥陀仏快慶
	第13冊	寝殿造系庭園の立地的考察
	第14冊	レースと金亀舎利塔に関する研究
	第15冊	平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査
1963	第16冊	平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査
	第17冊	平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査
1965	第18冊	小堀遠州の作事
	第19冊	藤原氏の氏寺とその院家
1969	第20冊	名物裂の成立
1971	第21冊	研究論集Ⅰ
1973	第22冊	研究論集Ⅱ
1974	第23冊	平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条三坊の調査
	第24冊	高山一町並調査報告一
1975	第25冊	平城京左京三条二坊
	第26冊	平城宮発掘調査報告Ⅶ
	第27冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第28冊	研究論集Ⅲ
1976	第29冊	木曾奈良井一町並調査報告一
	第30冊	五条一町並調査の記録一
1977	第31冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
	第32冊	研究論集Ⅳ
	第33冊	イタリア中部の一山岳集落における民家調査報告
	第34冊	平城宮発掘調査報告Ⅷ
1978	第35冊	研究論集Ⅴ

1979	第36冊	平城宮整備調査報告Ⅰ
	第37冊	飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
	第38冊	研究論集Ⅵ
1980	第39冊	平城宮発掘調査報告Ⅹ
1981	第40冊	平城宮発掘調査報告Ⅺ
1984	第41冊	研究論集Ⅶ
	第42冊	平城宮発掘調査報告Ⅻ
	第43冊	日本における近世民家（農家）の系統的発展

1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇
	第5冊	古代の誕生仏
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—
1980	第7冊	日本古代の鷄尾
1981	第8冊	山田寺展
1982	第9冊	高松塚拾年
1983	第10冊	渡来人の寺—檜隈寺と坂田寺—
	第11冊	飛鳥の水時計
	第12冊	小建築の世界—埴輪から瓦塔まで—
1984	第13冊	藤原宮—半世紀にわたる調査と研究—

奈良国立文化財研究所史料

年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集（複製）
1955	第2冊	西大寺教傳伝記集成
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1
1964	第4冊	俊乗坊重源史料集成
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2
1969	第5冊	平城宮木簡1 解説（別冊）
1970	第7冊	唐招提寺史料1
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説
	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ
1975	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ
1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1977	第12冊	藤原宮木簡1 図版・解説
	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ
1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
	第15冊	東大寺文書目録第1巻
1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
	第17冊	平城宮木簡3 図版・解説
	第18冊	藤原宮木簡2 図版・解説
	第19冊	東大寺文書目録第2巻
1980	第20冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅶ
	第21冊	東大寺文書目録第3巻
1981	第22冊	七大寺巡礼私記
	第23冊	東大寺文書目録第4巻
1982	第24冊	東大寺文書目録第5巻
	第25冊	平城宮出土墨書土器集成Ⅰ
1983	第26冊	東大寺文書目録第6巻
1984	第27冊	木器集成図録—近畿古代篇—

奈良国立文化財研究所基準資料

年度	名	称
1973	第1冊	瓦編1 解説
1974	第2冊	瓦編2 解説
1975	第3冊	瓦編3
1976	第4冊	瓦編4
	第5冊	瓦編5
1978	第6冊	瓦編6
1979	第7冊	瓦編7
1980	第8冊	瓦編8
1983	第9冊	瓦編9

飛鳥資料館図録

年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇
1977	第3冊	日本古代の墓誌

IV 定員

区分	指定職	行政職(一)	行政職(二)	研究職	計
1985年度	1	22	4	66	93
1986年度	1	22	4	64	91

V 予算（1985年度）

人件費	504,218千円
運営費	671,909
事業管理	4,382
一般研究	56,506
特別研究	1,591
発掘調査	436,445
宮跡整備管理	54,590
飛鳥資料館運営	46,554
埋蔵文化財センター運営	42,006
新庁舎維持管理等経費	29,835
施設費	413,133
施設整備費	25,328
平城宮跡等整備費	279,396
不動産購入費	100,000
各所修繕費	8,409
計	1,589,260

VI 施設

土地

奈良国立文化財研究所所管	27,375㎡
本庁舎	8,860㎡
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	20,382㎡
飛鳥資料館	17,092㎡
郡山宿舍(一)	80㎡
飛鳥資料館宿舍	1,343㎡
文化庁所管（関係分）	1,347,764㎡
平城宮跡地区	1,076,010㎡
藤原宮跡地区	293,642㎡
飛鳥稲淵宮殿跡地区	5,041㎡

建物

1. 庁舎	23,293㎡
-------	---------

区 分	本庁舎	平城	藤原	飛鳥資料館	藤原宮跡	計
	m ²					
事務室	568	138	304	90		1,100
研究室	1,419	418	274	77		2,188
資料・図書室	1,021		36	36		1,093
会議室	338	64	58	42		502
講堂		384		89		473
展示室		576		648		1,224
写真室	79	256	87	64		486
覆屋・展示棟		1,686				1,686
車庫	84	200	259	94		637
倉庫・収蔵庫	123	4,945	2,144	485		7,692
研修棟	1,416					1,416
その他	1,745	2,241	118	1,062	36	5,202
計	6,793	10,908	3,280	2,682	36	23,699

2. 宿舍等 591m²
 重要文化財旧米谷家住宅 213m²
 郡山宿舍(-), (二) 153m²
 飛鳥資料館宿舍 225m²

主要工事

- (1) 施設整備費 千円
 昭和60年度飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺物倉庫新営工事 2,330
 (2) 平城宮跡地等整備費
 平城宮跡宮内省南殿第二殿復原工事 89,000
 平城宮跡環境整備昭和60年度第一期工事 114,800
 平城宮跡構内道路補修等工事 3,900
 平城宮跡環境整備昭和60年度第二期工事 64,000

VII 人事移動

(1985年4月1日～1986年3月31日)

- 4月1日 庶務部長に昇任
 伊藤 省三
 埋蔵文化財センター教務室長に昇任
 東谷 久夫
 平城宮跡発掘調査部考古第二調査室長に昇任
 田辺 征夫
 庶務部会計課経理係長に昇任
 山口 重治
 庶務部会計課経理係経理主任に昇任
 小林 雅文
 埋蔵文化財センター情報資料室に転任
 包国 征治
 平城宮跡発掘調査部考古第三調査室に配置換
 花谷 浩
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部遺構調査室に配置換
 深沢 芳樹

- 事務補佐員(庶務部庶務課)に採用
 西嶋 富美
 研究補佐員(飛鳥藤原宮跡発掘調査部)に採用
 小寺 誠
 富山工業高等専門学校事務部長に配置換
 大村 幸男
 文化庁文化財保護部建造物課主任文化財調査官に配置換
 吉田 靖
 京都国立博物館学芸課考古室長に配置換
 森 郁男
 滋賀医科大学教務部学生課長に転任
 若井 明
 大阪大学レーザー核融合研究センター業務第二係長に転任
 林 勝彦
 文化庁文化財保護部記念物課に転任
 佐藤 信
 国立民族学博物館情報管理施設技術室に転任
 中川 隆
 5月1日 庶務部会計課用度係長に昇任
 西村 博美
 奈良国立博物館管理課会計係長に転任
 新井 耕治
 5月22日 死 亡
 (平城宮跡発掘調査部主任研究官)
 西 弘海
 7月1日 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任
 千田 剛道
 平城宮跡発掘調査部主任研究官に昇任
 山崎 信二
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任
 岩本 圭輔
 飛鳥藤原宮跡発掘調査部主任研究官に昇任
 大脇 潔
 8月20日 事務補佐員(埋蔵文化財センター教務室)に採用
 築山 薫
 辞職
 宮崎 弘美
 12月31日 辞職
 佐藤 興治
 1月1日 庶務部会計課専門職員に昇任
 柿本 治
 庶務部庶務課専門職員に配置換
 西田 健三
 平城宮跡発掘調査部遺構調査室に採用

3月31日 辞職（任期満了）
 辞職（定年退職）
 辞職

島田 敏男
 坪井 清足
 米田一二三
 菊本 洋子

Ⅷ 組織規定

文部省組織令 抜萃

昭和59年政令第127号
 昭和59年7月1日全部改正

第108条

2 前項に定めるもののほか、文化庁に次の施設等機関を置く。

国立文化財研究所（前後略）

第114条 国立文化財研究所は、文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行う機関とする。

2 国立文化財研究所には、支所を置くことができる。

3 国立文化財研究所及びその支所の名称、位置及び内部組織は、文部省令で定める。

文部省設置法施行規則 抜萃

昭和28年1月13日文部省令第2号
 追加昭和43年6月15日文部省令第20号
 昭和45年4月17日文部省令第11号
 昭和45年4月12日文部省令第6号
 昭和49年4月11日文部省令第10号
 昭和50年4月2日文部省令第13号
 昭和51年5月10日文部省令第16号
 昭和52年4月18日文部省令第10号
 昭和53年4月5日文部省令第19号
 昭和53年9月9日文部省令第33号
 昭和55年4月5日文部省令第14号
 昭和55年6月25日文部省令第23号
 昭和58年10月1日文部省令第25号
 昭和59年7月1日文部省令第37号

第5章 文化庁の施設等機関

第4節 国立文化財研究所

第116条の9 国立文化財研究所の名称及び位置は、次の表に掲げるとおりとする。

名 称	位 置
東京国立文化財研究所	東京都台東区
奈良国立文化財研究所	奈良県奈良市

第2款 奈良国立文化財研究所
 （所長）

第123条 奈良国立文化財研究所に、所長を置く。

2 所長は所務を掌理する。
 （内部組織）

第124条 奈良国立文化財研究所に、庶務部、建造物研究室及び歴史研究室並びに平城宮跡発掘調査部及び飛鳥藤原宮跡発掘調査部を置く。

2 前項に定めるもののほか、奈良国立文化財研究所に、飛鳥資料館及び埋蔵文化財センターを置く。

（庶務部の分課及び事務）

第125条 庶務部に、次の二課を置く。

一 庶務課

二 会計課

2 庶務課においては、次の事務をつかさどる。

一 職員の人事に関する事務を処理すること。

二 職員の福利厚生に関する事務を処理すること。

三 公文書類の接受及び公印の管守その他庶務に関すること。

四 この研究所の所掌事務に関し、連絡調整すること。

五 この研究所の所掌に係る遺構及び遺物の保全のための警備に関すること。

六 前各号に掲げるもののほか、他の所掌に属しない事務を処理すること。

3 会計課においては、次の事務をつかさどる。

一 予算に関する事務を処理すること。

二 経費及び収入の決算その他会計に関する事務を処理すること。

三 行政財産及び物品の管理に関する事務を処理すること。

四 庁舎及び設備の維持、管理に関する事務を処理すること。

五 庁内の取締りに関すること。

（建造物研究室等の事務）

第127条 建造物研究室においては、建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

2 歴史研究室においては、考古及び史跡並びに歴史資料に関する調査研究を行い、並びにその結果の公表を行う。

（平城宮跡発掘調査部の六室及び事務）

第128条 平城宮跡発掘調査部に、考古第一調査

室、考古第二調査室、考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、平城宮跡に関し、次項から第六項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室、考古第二調査室及び考古第三調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 計測修景調査室においては、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 6 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥藤原宮跡発掘調査部の四室及び事務）

第129条 飛鳥藤原宮跡発掘調査部に、考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室及び史料調査室を置く。

- 2 前項の各室においては、藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡に関し、次項から第五項までに定める事務を処理するほか、その発掘を行う。
- 3 考古第一調査室及び考古第二調査室においては、別に定めるところにより分担して、遺物（木簡を除く）の保存整理及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 4 遺構調査室においては、遺構の保存整理及び調査研究、遺構の計測及び修景並びにこれらに関する調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。
- 5 史料調査室においては、木簡の保存整理及び調査研究、史料の収集及び調査研究並びにこれらの結果の公表を行う。

（飛鳥資料館）

第130条 飛鳥資料館においては、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、国民の理解を深めるため、この地域に関する考古資料、歴史資料その他の資料を収集し、保管して公衆の観覧に供し、あわせてこれらに関する調査研究及び事業を行う。

（飛鳥資料館の館長）

第131条 飛鳥資料館に館長を置く。

2 館長は、館務を掌理する。

（飛鳥資料館の二室及び事務）

第132条 飛鳥資料館に、庶務室及び学芸室を置く。

2 庶務室においては、飛鳥資料館の庶務、会計等に関する事務を処理する。

3 学芸室においては、次の事務をつかさどる。

一 飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻、典籍、古文書その他の資料の収集、保管、展示、模写、模造、写真の作成、調査研究及び解説を行うこと。

二 飛鳥地域に関する図書、写真その他の資料の収集、整理、保管、展示、閲覧及び調査研究を行うこと。

三 飛鳥資料館の事業に関する出版物の編集及び刊行並びに普及宣伝を行うこと。

（埋蔵文化財センター）

第133条 埋蔵文化財センターにおいては、次の事務をつかさどる。

一 埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うこと。

二 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の埋蔵文化財調査関係職員その他の関係者に対して、専門的、技術的な研修を行うこと。

三 埋蔵文化財の調査及び保存整理に関し、地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導及び助言を行うこと。

四 埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管及び調査研究を行い、並びに地方公共団体の機関その他関係の機関及び団体等の求めに応じ、その利用に供すること。

（埋蔵文化財センターの長）

第134条 埋蔵文化財センターに長を置く。

2 前項の長は、埋蔵文化財センターの事務を掌理する。

（埋蔵文化財センターの内部組織）

第135条 埋蔵文化財センターに、教務室、研究指導部及び情報資料室を置く。

（教務室の事務）

第136条 教務室においては、研修の実施に関する事務を処理するほか、埋蔵文化財センターの

庶務に関する事務をつかさどる。

(研究指導部の六室及び事務)

第 137 条 研究指導部に、考古計画研究室、集落遺跡研究室、発掘技術研究室、遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室を置く。

2 考古計画研究室においては、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務（他の室の所掌に属するものを除く）をつかさどる。

3 集落遺跡研究室においては、集落遺跡に関し、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務（遺物処理研究室、測量研究室及び保存工学研究室の所掌に属するものを除く）をつかさどる。

4 発掘技術研究室においては、遺跡の発掘技術

に関し、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務をつかさどる。

5 遺物処理研究室においては、遺物の処理に関し、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務をつかさどる。

6 測量研究室においては、埋蔵文化財の測量に関し、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務をつかさどる。

7 保存工学研究室においては、遺跡の保存整備に関し、第 133 条第 1 号から第 3 号までに掲げる事務をつかさどる。

(情報資料室の事務)

第 138 条 情報資料室においては、第 133 条第 4 号に掲げる事務をつかさどる。

職員 (1986年7月1日現在)

所属	氏名	官職	担当
	鈴木 嘉吉	文部技官 所長	
	伊藤 省三	文部事務官 部長	
庶務課	松本 保之	文部事務官 課長	長
	筋 忠男	文部事務官 課長	補佐
	西田 健三	文部事務官 課長	補佐
	西 重徹	文部事務官 課長	補佐
	岡田 光治	文部事務官 課長	補佐
	八幡 博无	文部事務官 課長	補佐
	戸 扶桑	文部事務官 課長	補佐
	港 雅子	文部事務官 課長	補佐
	福本 良子	文部事務官 課長	補佐
	新宮 惠子	文部事務官 課長	補佐
	守本 宣代	文部事務官 課長	補佐
	中川 小上	文部事務官 課長	補佐
	中垣 睦美	文部事務官 課長	補佐
	西 富美	文部事務官 課長	補佐
	西 富美	文部事務官 課長	補佐
部計課	赤羽 一夫	文部事務官 課長	長
	福島 進	文部事務官 課長	補佐
	本 康史	文部事務官 課長	補佐
	渡辺 治	文部事務官 課長	補佐
	柿山 重治	文部事務官 課長	補佐
	小林 雅文	文部事務官 課長	補佐
	前川 重子	文部事務官 課長	補佐
	橋元 敬子	文部事務官 課長	補佐
	築山 薫	文部事務官 課長	補佐
	西村 博美	文部事務官 課長	補佐
	岡本 安司	文部事務官 課長	補佐
	中西 建夫	文部事務官 課長	補佐
	飯本 信男	文部事務官 課長	補佐
	藤本 上季	文部事務官 課長	補佐
	田 渡辺	文部事務官 課長	補佐
部計課	小園 秀彦	文部事務官 課長	補佐
	大西 和子	文部事務官 課長	補佐
建造物研究室	宮本 長二	文部技官 室長	建築
	松本 修一	文部技官 室長	建築
	清水 真人	文部技官 室長	建築
建造物研究室	山岸 常	文部技官 室長	建築
	本中 真淡	文部技官 室長	建築
	田 中	文部技官 室長	建築
歴史研究室	頭井 清	文部技官 室長	史
	松 章	文部技官 室長	史
	深 芳樹	文部技官 室長	史
歴史研究室	本 義保	文部技官 室長	史
歴史研究室	橋 義則	文部技官 室長	史
歴史研究室	崎 浩	文部技官 室長	史
歴史研究室	本 保	文部技官 室長	史
歴史研究室	花 浩	文部技官 室長	史
歴史研究室	谷 春	文部技官 室長	史
歴史研究室	池 春	文部技官 室長	史

所属	氏名	官職	担当			
	町田 章	文部技官 部長				
考古第一調査室	金子 裕之	文部技官 室長	考古			
	井上 和	文部技官 室長	考古			
	松岩 惠	文部技官 室長	考古			
	永幡 扶	文部技官 室長	考古			
	千 幹	文部技官 室長	考古			
	岩 千	文部技官 室長	考古			
	吉 千	文部技官 室長	考古			
	川 千	文部技官 室長	考古			
	石 千	文部技官 室長	考古			
	考古第二調査室	田辺 征夫	文部技官 室長	考古		
		玉田 芳	文部技官 室長	考古		
		巽 淳	文部技官 室長	考古		
		千田 剛	文部技官 室長	考古		
		考古第三調査室	毛利 俊彦	文部技官 室長	考古	
			花谷 正	文部技官 室長	考古	
佐川 謙一			文部技官 室長	考古		
小林 謙一			文部技官 室長	考古		
遺構調査室			上野 邦一	文部技官 室長	建築	
			松本 修	文部技官 室長	建築	
			岸田 常	文部技官 室長	建築	
			山島 敏	文部技官 室長	建築	
			計測修景調査室	田中 哲雄	文部技官 室長	園庭
				本高 真一	文部技官 室長	園庭
				瀬村 要	文部技官 室長	園庭
	岡 正			文部技官 室長	園庭	
	史料調査室			綾村 宏	文部技官 室長	史
				橋本 義保	文部技官 室長	史
				寺崎 廣	文部技官 室長	史
		野 己		文部技官 室長	史	
		園庭		細見 三	文部技官 室長	園庭
				高瀬 剛	文部技官 室長	園庭
				千 道	文部技官 室長	園庭
巽 一郎				文部技官 室長	園庭	
小林 謙				文部技官 室長	園庭	
西 健				文部技官 室長	園庭	
田 光				文部技官 室長	園庭	
岡 博			文部技官 室長	園庭		

